大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

はじめに

メタデータ	言語: ja 出版者: 大阪公立大学都市科学・防災研究センター 公開日: 2024-03-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 全, 泓奎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/0002000485

はじめに

「ヤングケアラーと子どもの不利を考える研究会」は、2022 年度大阪公立大学先端的都市研究拠点による公募型共同研究課題として採択を受け結成された研究グループである。

学際的な観点から研究を進めることによって、子ども・若者の不利を断ち切るために実践的な研究を行うことを目的にした新しい研究組織である。

近年コロナ禍の中で深刻さが増しているといわれる女性や子どもの孤独・孤立に伴う困窮問題は、社会統合を阻害するのみならず、次世代の育成という観点からも喫緊な対応が求められる課題でもある。そこで、本研究会ではとりわけ子どもに焦点を当て、本来学業に専念する発達段階である子どもたちがケアの担い手となっているヤングケアラー問題の都市部での現状を把握し、地域と連携する形で具体的な支援課題を明らかにするため調査研究に取り組んできた。

ヤングケアラーにかんしては、明確な定義や法令上の定義があるわけではないが、いち早くその概念や実態について伝えてきた澁谷(2018)によれば、「家族にケアを要する人がいるために、家事や家族の世話などを行っている、十八歳未満の子どものことで、慢性的な病気や障がい、精神的な問題などのために、家族の誰かが長期のサポートや看護、見守りを必要とし、そのケアを支える人手が充分にない時には、未成年の子どもであっても、大人が担うようなケア責任を引き受け、家族の世話をする状況が生じる」としている。また家族介護に着目した研究を続けてきた濱島(2021)は、「これまで大人が担う家族介護、家族のケアについて(中略)、10 代、20 代、時には 10 歳未満でケアを担い、学校に行けなくなる、体を壊してしまう、友人関係がうまくいかなくなるという子ども、若者たちが相当数いる」とし、これらに対し「子ども介護者」と称した上でさまざまな調査や実践から得た知見を紹介している。一方、厚生労働省によれば「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこどものこと(下図参照)」[1]とした上で、こうした問題に対しこれまでに実施してきた全国規模の調査やその結果に基づいて作成した支援マニュアル等も注 1 の同省ホームページで紹介されており参考に値する。

[1] 厚生労働省ホームページ　https://www.mhlw.go.jp/stf/young-carer.html (2023/2/2)

図 1　ヤングケアラーとは

一方、日本ケアラー連盟ではヤングケアラーに加え、子どもに限らずケアラー一般へと関心を広げており、ケアラーの定義として「こころやからだに不調のある人の『介護』『看病』『療育』『世話』『気づかい』など、ケアの必要な家族や近親者、友人、知人などを無償でケアする人のこと」と幅広く捉えている(下図参照)。

図 2　ケアラーとは

このように、少子高齢化が進展する中、女性の社会参加や共働き世帯の増加、そして家族構造の変化等によるひとり親世帯が増えたことに加え、人口移動のグローバルな展開に伴い外国籍住民が増えてきたこと等による経済・社会的な要因が重なり合う中で、ケアの担い手として子どもや若者が注目されるようになった。さらにそれに拍車をかける形で 2020 年からのコロナ禍による社会の閉塞化や雇用・収入への影響は、とりわけ女性や子どもにしわ寄せがいき、孤独・孤立問題を深めていることも報告されている(厚生労働省編 2021)。こうした形で経済社会的な問題が山積しており、本来であれば学業や社会進出に向けた準備に励むべき子どもや若者の生活を支えていくための対応が求められている。

こうした背景から近年は、ヤングケアラー問題をより広く捉え「子ども・若者ケアラー」としてその当事者の声を伝えるような動きが増えている(斎藤・濱島・松本・京都市ユースサービス協会編、2021；現代思想 2022 年 11 月号、vol.50-14 等を参照 [2])。

---

[2] とりわけ後者は当事者の経験をはじめ、ヤングケアラーの中のコーダー、障がいを持つきょうだいがいる子どもへのケア(きょうだい児)、精神疾患を抱えた親のもとで育つ子ども・若者、移動する子ども(外国ルーツのある子ども)とケアのような

そこで本研究会では、一先ず大阪南部を中心に地域活動を展開する「3地区まちづくり合同会社AKYインクルーシブコミュニティ研究所」の協力を得て、近隣の小中学校の教師を対象に調査を実施することにした。

具体的には、2022年12月に大阪市住吉区と東住吉区の小中学校に勤務する教諭を対象に質問紙調査を実施し、2023年3月7日に調査実施14校のうち地域と人権問題を担当する一部の教師の協力を得て、フォーカスグループ・インタビュー（以下、FGI）調査を実施した。

今回の調査結果に依拠し、家族介護や世話を行っている児童・生徒の学校での状況や困りごとなどを把握し、学校と地域との連携体制の構築に向けた具体的な実践プログラムの開発に繋げることが本調査の目的である。これまで578部を配布し243部を回収した(回収率42%)。内訳は中学校5校109部、小学校9校132部、無効2部である。

研究会は、こうした近隣の学校現場の実態把握にかかわる調査のみならず、専門家や実務家を講師として招き議論を深めるための研究会も開催してきた。最終的にはこれらの結果をまとめた研究成果報告会を開催し、ブックレットとして刊行するとともに、学校現場へのフィードバックや研究成果の社会発信、そして大学を含む学校と地域との連携を図っていくことを目指している。以下では、これまで開催して来た研究会に関連した内容を簡単に紹介したい。

まず、第 1 回目の研究会では、一般社団法人東住吉矢田人権協会の岸本里美理事長を講師として招き、大阪市東住吉区矢田地域で展開されている多機関連携による子ども支援ネットワークについて紹介していただき、その後質疑応答を交えながら地域での実践経験について学ぶ機会を持った。大阪市東住吉区矢田地域では、地域で子どもを育てる家庭を側面から支えるために、2004 年に教育機関や行政機関、地域住民・団体などが連携する「地域子育て地域支援ネットワーク」を設立し活動して来た。長年の取り組みによって培われてきた知見は、ヤングケアラーを含む成育環境が不利な子ども達の課題解決にも示唆を与えるものと考えられる。本研究会は、本学学術情報センター1 階の文化交流室で開催され、地元の住民や小中学校の教諭、そして多くの研究者が参集し、活発な議論が行われて新たな地域課題への認識を共有することができた。

その後、第 2 回と第 3 回の研究会は、海外の関連事例の紹介と調査の中間報告を兼ねて開催された。

様々な観点から述べられている。

写真 1　第 1 回研究会の様子

第 2 回(12 月 7 日)の研究会では、「台湾における外国人児童支援とヤングケアラー問題」をテーマに、広島文教大学教育学部助手で都市科学・防災研究センター特別研究員である川瀬瑠美さんが報告を行った。台湾の事例は日本にとって有益なのか、台湾にはどのような支援システム等があるのかを中心に、台湾と日本との比較にも触れながらの報告であった。

第 3 回研究会(1 月 17 日)では、関西福祉科学大学教授で都市科学・防災研究センター特別研究員である森口由佳子さんにより、住吉区・東住吉区内の小中学校を対象としたヤングケアラ―にかかわる調査結果の中間報告が行われた。12 月に調査票が配布されたため当日までに集まった調査票は少数に留まったものの、ヤングケアラーと思われる生徒の把握状況が報告された。最終的な結果にかんしては現在もなお分析作業を行っているところで、最終的には 3 月 9 日に実施される最終研究会で報告する予定である。また第 3 回研究会では、第 2 回と同様に、近隣国との比較という観点から同志社大学大学院社会学研究科外国人留学生助手で、都市科学・防災研究センター特別研究員の楊慧敏さんより、「中国における留守児童のヤングケアラー問題」について報告が行われた。「留守児童」とは、「両親の両方、または、片方が出稼ぎに行っている 18 歳未満の子ども」を指す用語で、中国特有の問題かつ農村地域にやや偏ってはいるものの、ヤングケアラー問題にかかわる東アジアの比較という視点から相互に多くの示唆点が得られるように感じた。

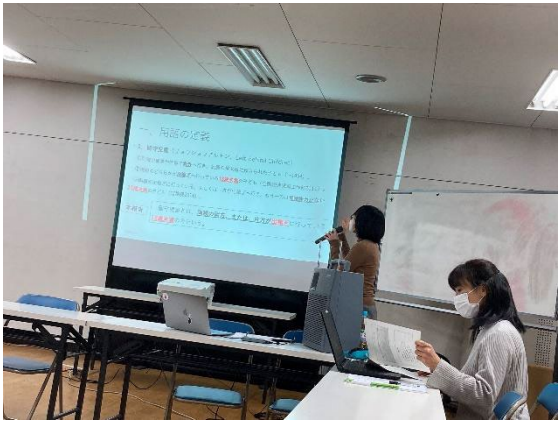

写真 2　第 3 回研究会の様子

こうしたヤングケアラーと関連した取り組みとして、令和 2 年に埼玉県が初めて「埼玉県ケアラー支援条例」を制定したことを皮切りに、全国的に 14 の自治体で条例が制定されている(本書第 5 章・第 6 章・第 7 章を参照)。本研究会では、1 月 31 日に岡山県備前市、そして 2 月 10 日には岡山県総社市を訪問し、条例制定の背景や具体的な施策内容等についても調査を行い、先に紹介した小中学校の調査や海外の動向と比較しながら具体的な福祉政策の方向性についても模索していきたいと考えている。

参考文献

厚生労働省編（2021）『令和 3 年版厚生労働白書：新型コロナウィルス感染症と社会保障』

齋藤真緒・濱島淑惠・松本理沙・京都市ユースサービス協会編（2022）『子ども・若者ケアラーの声からはじまる：ヤングケアラー支援の課題』クリエイツかもがわ

澁谷智子（2018）『ヤングケアラー：介護を担う子ども・若者の現実』中公新書

濱島淑惠（2021）『子ども介護者：ヤングケアラーの現実と社会の壁』角川新書

全 泓奎（大阪公立大学）